

実践薬学研究室

Pharmacy Practice and Sciences

教授 田口 雅登 Masato Taguchi

◆ 研究概要

当研究室では、日常の医療現場で生じる多様な薬物治療上の問題に対し、主として薬物動態学的アプローチから原因解明や解決を図る臨床薬学研究に取り組んでいます。より具体的には、1) 臨床試験、2) Modeling & Simulation等に基づく体内動態や薬効の予測、3) 薬物治療を支える科学的エビデンス創出を目的とする基礎研究、などを行っています。また、地域で働く薬剤師の日常業務や研究活動を支援するため、薬剤師実践力を強化養成する卒後教育プログラムの開発や学び直しを目的としたリカレントプログラムなど、薬学教育学研究にも取り組んでいます。

◆ 原 著

- 1) Taguchi M, Kawasaki Y, Katsuma A, Mito A, Tamura K, Makimoto M, Yoshida T. Pharmacokinetic Variability of Caffeine in Routinely Treated Preterm Infants: Preliminary Considerations on Developmental Changes of Systemic Clearance. *Biol Pharm Bull.* 2021 Jan 1; 44(1): 69-74. doi: 10.1248/bpb.b20-00616.

◆ 学会報告

- 1) Watahiki D, Saito D, Nishida N, Tsuru H, Nomura K, Adachi Y, Taguchi M. plausible mechanism for delayed methotrexate excretion by voriconazole injection. The 9th Toyama-Basel Symposium; 2021 Sep 15-17; Basel (オンライン).
- 2) 田口雅登, 廣野恵一, 小澤綾佳, 芳村直樹, 市田露子. 蛋白漏出性胃腸症患者に伴うタダラフィルの血清蛋白結合率変動. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会; 2021 May 6-8; 東京 (オンライン).
- 3) 仲岡英幸, 寶田真也, 伊吹圭二郎, 小澤綾佳, 廣野恵一, 田口雅登, 土居寿男, 深原一晃, 芳村直樹, 藤田修平, 畑崎喜芳. 閉塞性肥大型心筋症術後の心房頻拍に高用量β遮断薬が有効であったNoonan症候群の一例. 第57回日本小児循環器学会総会・学術集会; 2021 Jul 9-11; 奈良 (オンライン).

◆ その他

- 1) 田口雅登. 改正薬機法にかかる新専門薬剤師制度と富山大学薬学部のリカレント教育構想. 富山県薬剤師会生涯教育研修会; 2021 Sep 16; 富山. (招待講演)